衆議院欧州諸国外交・政治経済事情等調査議員団

報　　告　　書

令和６年１０月

令和６年１０月

衆 議 院 議 長
　額　賀　福志郎　殿

衆議院欧州諸国外交・政治経済事情等
調査議員団

団　　長　　勝　俣　孝　明

本議員団は、欧州諸国における外交・政治経済事情等調査のため、令和６年７月３日から７月１２日までの間、アルバニア、トルコ及びギリシャを訪問しましたので、その概要を次のとおり御報告いたします。

目　次

頁

１　団名・・・

（３）ギリシャ共和国・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・28
① ギリシャ国会視察視察 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・29
② スティリオス ギリシャ・日本友好議員連盟会長意見交換・・・・・・31
③ ケリディス 国防外務常任委員会副委員長意見交換 ・・・・・・・・33
④ コツィラス 外務副大臣意見交換 ・・・・・・・・・・・・・・・・・35

１　団名

衆議院欧州諸国外交・政治経済事情等調査議員団

２　目的

欧州諸国における外交・政治経済事情等調査のため

３　議員団

団　長	外務委員会　委員長	勝俣　孝明　君	（自民）
	同　理　事	城内　実　君	（自民）
	同　理　事	源馬　謙太郎　君	（立憲）
	同　理　事	藤井　比早之　君	（自民）

同　行	衆議院外務調査室次席調査員	大内　亘	
	外務省大臣官房審議官	宮下　匡之	

４　派遣期間

令和６年７月３日（水）から１２日（金）までの１０日間

５　派遣国

アルバニア、トルコ、ギリシャ

６　主な調査内容

（１）アルバニア共和国

① 首相を訪問し、医療技術支援等について意見交換を行った。
② 外務大臣を訪問し、国連安全保障理事会の活動等について意見交換を行った。
③ 外務委員長を訪問し、アルバニアの歴史と周辺情勢等について意見交換を行った。
④ 日・アルバニア友好議連会長を訪問し、日本とアルバニアの交流円滑化等について意見交換を行った。
⑤ ティラナ工科大学を訪問し、日本のＯＤＡで提供された日本語学習機器について視察した。

（２）トルコ共和国

① 外交委員長を訪問し、災害対策等について意見交換を行った。
② 日・トルコ友好議連を訪問し、両国の連携強化の方策等について意見交換を行った。
③ 文化観光副大臣を訪問し、日本とトルコの文化・観光交流等について意見交換を行った。
④ 第二ボスポラス大橋を訪問し、日本の円借款資金の活用状況について視察した。
⑤ 海事博物館を訪問し、日本とトルコの友好の歴史等について視察した。

（３）ギリシャ共和国

① 日・ギリシャ友好議連を訪問し、両国間の友好の歴史等について意見交換を行った。
② 外務委員会を訪問し、国連海洋法等について意見交換を行った。
③ 外務副大臣を訪問し、日本・ギリシャ文化観光年等について意見交換を行った。

７　主な日程

令和６年

７月３日（水）

９：４０　東京（羽田）発（ＮＨ２２３便）

２２：５５　アルバニア共和国ティラナ市着

【ティラナ市泊】

７月４日（木）

１０：３０　エリオン・ヴェリアイ　ティラナ市長を表敬し、意見交換

１４：００　ミミ・コデリ　アルバニア議会外務委員長を表敬し、意見交換

１５：００　エディ・ラマ　アルバニア共和国首相を表敬し、意見交換

１６：１５　ティラナ工科大学・日本語学習ラボ（日本ＯＤＡにより整備）　視察

１８：３０　加藤在アルバニア大使からの説明

【ティラナ市泊】

７月５日（金）

９：３０　イグリ・ハサニ　欧州・外務大臣を表敬し、意見交換

１２：３０　ラエルト・ドゥライリ　アルバニア日本友好議員連盟会長主催昼食会

１５：３０　ドゥラス市市内視察

【ティラナ市泊】

７月６日（土）

１０：００　エルヴィン・デモ　ベラト市長を表敬し、意見交換

１０：４５　ベラト市消防局消防車（日本ＯＤＡにより整備）視察

１１：００　ベラト市市内視察

１８：５０　ティラナ発（ＴＫ８７８２便）

２１：３０　トルコ共和国イスタンブール市着

【イスタンブール市泊】

7月7日（日）

１２：３０　笠原在イスタンブール総領事からの説明

１５：００　海事博物館（エルトゥールル号展示）視察

１８：００　第二ボスポラス橋（日本ＯＤＡにより整備）視察

【イスタンブール市泊】

7月8日（月）

８：００　イスタンブール発（ＴＫ２１２６便）

９：１５　トルコ共和国アンカラ市着

１０：３０　勝亦在トルコ大使からの説明

１２：００　フアット・オクタイ　トルコ大国民議会外交委員長を表敬し、意見交換

１５：００　ムスタファ・フルキ・ジェヴィズオール　トルコ日本友好議員連盟会長を表敬し、意見交換

１６：００　ギョクハン・ヤズグ　トルコ共和国文化観光副大臣を表敬し、意見交換

１９：５５　アンカラ市発（ＴＫ２１７１便）

２１：１５　イスタンブール市着

【イスタンブール市泊】

7月9日（火）

１０：４０　イスタンブール市発（ＴＫ９１９１便）

１２：１０　ギリシャ共和国アテネ市着

１４：３０　鈴木在ギリシャ大使からの説明

【アテネ市泊】

7月10日（水）

１０：００　ギリシャ共和国議会視察

１０：３０　ゲオルギオス・スティリオス　ギリシャ・日本友好議員連盟会長を表敬し、意見交換

１１：４５　ディミトリス・ケリディス　ギリシャ共和国議会防衛・外務常任委員会副委員長を表敬し、意見交換

１５：３０　ヨルゴス・コツィラス　ギリシャ共和国外務副大臣を表敬し、意見交換

【アテネ市泊】

７月 11 日（木）

６：００　アテネ市発（ＬＨ１７５７便）

【機中泊】

７月 12 日（金）

６：５５　東京（羽田）着

８　調査の概要

（１）アルバニア共和国

アルバニア共和国は、面積が約 28,700 平方キロメートル（四国の約 1.5 倍)、人口は約 276 万人（広島県と同程度）とされている。民族はアルバニア人、言語はアルバニア語とされ、人口の 57%がイスラム教、10%がローマカトリック、７%が正教であるとされている。

政体としては、共和制が採用されている。2022（令和４）年７月にバイラム・ベガイ大統領が就任している。また、2013（平成 25）年９月にエディ・ラマ首相が就任している。

我が国との友好関係の始まりは、1922（大正 11）年に日本政府の内田康哉外務大臣（当時）からアルバニア政府のファン・ノリ外務大臣（当時）宛てに文書が送られ、日本政府がアルバニア政府を法的に承認したことが通知されたことが契機とされている。

また、2014（平成 26）年８月には伊吹衆議院議長（当時）がアルバニアを訪問し、また、2019（平成 31）年 10 月にはルチ国会議長が、2023（令和５）年２月にはラマ首相が日本を訪問するなど、両国の友好が深められている。

議員団の城内実議員は、2013（平成 25）年４月に外務政務官として、2018（平成 30）年７月に日アルバニア友好議連事務局長として、2019（平成 31）年７月に環境副大臣として、アルバニアを訪問しており、今回の派遣で４回目のアルバニア訪問となった。こうした日本とアルバニアとの友好に向けた城内議員の働きは、アルバニア側にも知られており、首相や外務大臣等の要人表敬や「ティラナへの鍵」授与など、更なる友好に向けた取組につながったと考えられる。

①エリオン・ヴェリアイ（Mr.Erion VELIAJ）ティラナ市長意見交換概要

・期　日　令和６年７月４日
・対応者　ヴェリアイ ティラナ市長、マズニク 地方自治体担当国務大臣他
・日本側　勝俣団長（自民）　城内議員（自民）　源馬議員（立憲）
　　藤井議員（自民）

市役所入口にて、ヴェリアイ市長による歓迎を受け、市長室において意見交換を行った。意見交換の概要は、次のとおり。

まず、ヴェリアイ市長より、マズニク地方自治体担当国務大臣、ムチャ次期駐日アルバニア大使等が紹介された。

次に、ヴェリアイ市長からは、ティラナ市では、スポーツや文化の交流に力を入れていること、教育改革やデジタル投資の推進も実施していること、日本との関係構築については和平が非常に重要であると考えており、市長として大きくコミットしていきたいことについて、発言があった。また、両国の友好関係について、国と国の関係だけでなく、都市と都市との関係でも構築すべきであり、交流強化について、東京との関係構築を進めたい旨の発言があった。さらに、アルバニアと日本の交流強化のためにも、今回、ティラナ市を議員団が訪問したことは、大変に意義深いことであり、歓迎するとの発言があった。

これに対して、勝俣団長からは、冒頭、議員団訪問の直前である７月１日に亡くなられた、アルバニアを代表する作家であるイスマイル・カダレ氏に対するお悔やみと１月１日に発生した能登半島地震に対するアルバニアからの支援のメッセージに対する感謝に関する発言があった。続いて、アルバニアと我が国は、法の支配・自由・民主主義といった基本的価値を共有しており、これまでも良好な二国間関係を構築してきたこと、今回の意見交換を踏まえ、両国の友好・協力関係をさらに深めていきたいと考えている旨の発言があった。

（ヴェリアイ市長表敬）

ヴェリアイ市長との意見交換後、市議会議事堂に移動して、議員団の城内実議員に対する名誉市民のしるしとしての「ティラナへの鍵」の贈呈式典が行われた。また、贈呈式典後、ヴェリアイ市長主催歓迎昼食会が開催された。

（城内実議員への「ティラナへの鍵」の贈呈式）

②ミミ・コデリ（Ms.Mimi Kodheli）アルバニア議会外務委員長意見交換概要

・期　日　令和６年７月４日
・対応者　コデリ アルバニア議会外務委員長他
・日本側　勝俣団長（自民）　城内議員（自民）　源馬議員（立憲）
　　藤井議員（自民）

アルバニア議会において、ミミ・コデリ アルバニア議会外務委員長と意見交換を行った。意見交換の概要は、次のとおり。

コデリ委員長からは、現在、国会開会中であり、激しい論戦が交わされていること、アルバニアは、ヨーロッパの国々の中では高い山があるなど地形変化にとんでおり、様々な文化が融合した食事もあること、古代ギリシャ以来、周辺国から侵略を受け続けた歴史をもつこと、ギリシャ、トルコ、イタリアなどの影響を受けていること、オープンマインドの国であり留学等を推奨していること、日本のようなパワーのある国を呼び込み、投資を拡大してほしいと願っていることについて、発言があった。

また、アルバニアの外交について、ＥＵ加盟に向けて努力を続けていること、アルバニアが属するバルカン地方は第一次大戦、第二次大戦において重要な場所となったこと、旧ソ連と国境を接していたこと、ロシアや中国と親しいセルビアと接していることは旧ソ連と国境を接していた時代を思い起こさせること、また、コソボ問題について日本の示した立場に感謝していることについて、発言があった。

アルバニアの安全保障について、アルバニアはＮＡＴＯに加盟しており、また、日本がＮＡＴＯにとって重要なパートナーであること、バルカン地方でも中国が影響力を行使し、ロシアの軍事力をサポートしていること、安全保障について将来の繁栄を確保するには、自分たちの努力だけでは足りず、パートナーが必要であることについて、発言があった。

勝俣団長からは、昨年２月のラマ首相訪日の際に首脳会談では和やかな雰囲気の中で大変充実した議論が行われ、経済関係強化及び国連の場での協力の確認がされたこと、近年は、アルバニア産の畜養マグロの日本への輸出が開始され、また、日・アルバニア商工会議所が設立されるなど、両国の経済関係が着実に進展していること、議会間交流も活発であり、特に昨年は、６月に友好議連総会が実施され、また、９月にはアルバニアの対日友好議連メンバーが訪日し、日本側の友好議連と交流が行われたことについて、発言があった。また、両国の絆を更に深め、発展させていくためには、こうした

議会間交流はますます重要になってくると考えている旨の発言があった。

城内議員からは、４回目のアルバニア訪問となること、双方の友好を進めるとの発言があった。

源馬議員からは、バルカン地方における中国の影響力について、コデリ外務委員長がどのように見ているのかとの質問があった。

コデリ外務委員長からは、中国は、人口や経済で圧倒的な力がある国であり、近いうちに米国を抜くかもしれないが一方で危険な国でもあること、非民主的な国と手を結ぶことが増えており、世界にとってのハイリスクであること、中国とロシア、北朝鮮が手を組んでおり、さらに非民主国家が結びつくと大変危険であると考えていること、これからはアフリカの世紀であり世界で最も豊かなのはアフリカということになるかもしれないがそのためには難民やテロリズムの横行を止めなければならないことについて、個人的な意見として発言があった。

藤井議員からは、中国の問題点として、力をもって現在の状況を変えようとすることが挙げられると思うが、どう考えるかとの質問があった。

コデリ外務委員長からは、中国は自分達が世界の中心であると考えており、彼らが思うとおりの歴史を作ろうとしているのではないかとの発言があった。

（コデリ外務委員長表敬）

③エディ・ラマ（H.E.Mr.Edi RAMA）アルバニア共和国首相意見交換概要

・期　日　令和６年７月４日
・対応者　ラマ 首相、スピロパリ 議会関係担当国務大臣他
・日本側　勝俣団長（自民）　城内議員（自民）　源馬議員（立憲）
　　藤井議員（自民）

アルバニア首相府において、エディ・ラマ アルバニア共和国首相と意見交換を行った。意見交換の概要は、次のとおり。

ラマ首相が議会対応のため予定の時刻を過ぎることとなり、ラマ首相到着までの間、エリサ・スピロパリ議会関係担当国務大臣（当時。７月 30 日に国会議長に就任）からアルバニアの議会及び選挙制度についての説明があった。ラマ首相到着までの間、両国の議会制度・選挙制度等について、議員団とスピロパリ大臣との間で懇談があった。

ラマ首相からは、昨年の日本訪問の際の印象と日本側のもてなしに対する感謝、アルバニアへの海外観光客増加の状況と日本人観光客増への期待、ビザなし渡航、日本製医療機器の支援等について、発言があった。外交関係では、中国に対する警戒感と日本を含むいわゆる西側諸国への期待感について、発言があった。

勝俣団長からは、昨年のラマ首相訪日において確認された経済関係強化及び国連の場での協力の継続、アルバニアが西バルカン地方における日本と価値を共有する重要なパートナーであること、アルバニアのＥＵ加盟プロセスを後押ししていくことについて、発言があった。

城内議員からは、ティラナ市の名誉市民のしるしとしての「ティラナへの鍵」授与に対する感謝、日本人観光客増加に対する期待について、発言があった。

源馬議員からは、日本とアルバニアとの関係を大きなフレンドシップにしていくべきである旨の発言があった。

藤井議員からは、サイバーセキュリティに関するアルバニアの貢献に感謝する旨の発言があった。

なお、日本の議員団がラマ首相と会談したこと、城内実議員が「ティラナへの鍵」を授与されたことは、現地報道でも報じられた。

（ラマ首相表敬）

④ティラナ工科大学視察概要

・期　日　令和６年７月４日
・対応者　マリチャリ ティラナ工科大学学長他
・日本側　勝俣団長（自民）　城内議員（自民）　源馬議員（立憲）
　　藤井議員（自民）

2019（令和元）年に日本政府による草の根文化無償資金協力により日本語ラボが整備されたティラナ工科大学を視察した。

ティラナ工科大学では、学長を表敬した後、整備された日本語研究室を訪問し、日本語を学ぶ学生との懇談を実施した。

マリチャリ学長からは、日本の議員や大使が大学を訪問したことに対する感謝とティラナ工科大学がアルバニア最古の工科大学であること等の大学の概要に関する説明があった。ティラナ工科大学では、研究等において、日本の大学や企業とのコラボレーションがされているとのことであった。

日本語研究室では、日本語を学ぶきっかけ（日本のアニメや建築に興味があったとのこと。）などについて、議員団と学生との懇談が行われた。

（ティラナ工科大学視察）

（ティラナ工科大学視察）

⑤イグリ・ハサニ（H.E.Mr.Igli Hasani）欧州・外務大臣意見交換概要

・期　日　令和６年７月５日

・対応者　ハサニ 欧州・外務大臣他

・日本側　勝俣団長（自民）　城内議員（自民）　源馬議員（立憲）
　　藤井議員（自民）

アルバニア外務省において、イグリ・ハサニ欧州・外務大臣と意見交換を行った。意見交換の概要は、次のとおり。

勝俣団長からは、本年１月の能登半島地震におけるハサニ大臣から送られた書簡に対する感謝、昨年のラマ首相訪日、議員団訪問の直前に行われた深澤外務政務官のアルバニア訪問など両国のハイレベルの意思疎通が定期的に行われていることに対する喜びの言葉、友好議連等による議会間の交流の進展、アルバニアが日本にとって西バルカンにおける価値を共有する重要なパートナーであり、政府が「西バルカン協力イニシアティブ」の下、アルバニアのＥＵ加盟プロセスを後押ししていくことについて、発言があった。

ハサニ大臣からは、日・アルバニアの友好関係が 100 周年を超えたこと、アルバニアの民主主義に対する日本のサポートに関する感謝、国連安保理における協力関係、深澤外務政務官のアルバニア訪問への感謝について、発言があった。

（ハサニ欧州・外務大臣表敬）

また、国連安保理における協力も踏まえ、日本とはパートナーであり、アルバニアにとって同盟国として重要な国であること、アルバニアは海外からの観光客が増加し、インフラ等の整備が急務であることから同盟国や友好国からの投資が重要であること、日本との更なる関係の深化に向けたビザなし渡航の必要性について、発言があった。

城内議員からは、2013 年に初めてアルバニアを訪れて以来、両国関係の改善に努めてきたことについて、発言があった。

源馬議員からは、日本とアルバニアの更なる関係の改善に向けて国会においても強く推進していくことについて、発言があった。

（ハサニ欧州・外務大臣表敬）

⑥ラエルト・ドゥライ（MR.Laert Duraj）アルバニア日本友好議連会長主催昼食会概要

・期　日　令和６年７月５日
・対応者　ドゥライ アルバニア日本友好議員連盟会長　シャルシ経済・金融委員長　パルンビ貿易・環境委員長　ゴグ国会議員他
・日本側　勝俣団長（自民）　城内議員（自民）　源馬議員（立憲）
　藤井議員（自民）

ラエルト・ドゥライ アルバニア日本友好議連会長主催による昼食会が開催された。アルバニア国会議員側として、ドゥライ会長のほか、シャルシ経済・金融委員長、パルンビ貿易・環境委員長、ゴグ国会議員が出席された。

昼食会においては、観光業の振興、アルバニアのＥＵ加盟、日本渡航のためのビザ廃止、日本とアルバニアを結ぶ直行便などが話題となった。

（ドゥライ アルバニア日本友好議員連盟会長主催昼食会）

⑦ドゥラス市視察概要

・期　日　令和６年７月５日

・日本側　勝俣団長（自民）　城内議員（自民）　源馬議員（立憲）
　　藤井議員（自民）

ティラナ市から西に約 40 ㎞程度の距離にあるドゥラス市を訪問し、イタリアの大学と共同で発掘作業が行われている古代ローマ時代の円形劇場を視察した。アルバニアでは、自国が古い歴史を持つ国であることをアピールし、観光客誘致も視野に入れて、古代の遺跡の発掘作業を積極的に実施しているとのことである。

⑧エルヴィン・デモ（Prof.Assoc.Ervin DEMO）ベラト市長意見交換及びベラト市消防車視察概要

・期　日　令和６年７月６日
・対応者　デモ ベラト市長他
・日本側　勝俣団長（自民）　城内議員（自民）　源馬議員（立憲）

ティラナ市から南に 100 kmほどの距離にあるベラト市を視察した。ベラト市は、アルバニアでも有数の古い歴史を持つ町である。オスマン帝国時代の遺跡が残されており、世界遺産に登録されている。

デモ市長との意見交換では、まず、日本からの援助による消防車配備についての感謝、日本人観光客増加への期待、両国の友好関係の更なる発展等について、発言があった。

（ベラト市長表敬）

その後、市庁舎前にて、日本からの援助による消防車について、デモ市長から説明を受けた。

（ベラト市消防車視察）

（２） トルコ共和国

トルコ共和国は、面積が約 78 万平方キロメートル（日本の約２倍）、人口は約 8,537 万人（日本の約７割）とされている。民族はトルコ人、クルド人、アルメニア人等、言語はトルコ語とされ、人口の 99%がイスラム教、その他、ギリシャ正教、アルメニア正教等であるとされている。

政体としては、共和制が採用されている。2014（平成 26）年８月にレジェップ・タイップ・エルドアン大統領が就任している。2018（平成 30）年より、議院内閣制から実権型大統領制へ移行した。

我が国との友好関係のきっかけとしては、1890（明治 23）年のエルトゥールル号事件（小松宮彰仁親王同妃両殿下がオスマン帝国を公式訪問したことに対する答礼として、特使としてオスマン提督を日本に派遣した際、エルトゥールル号が帰路、紀州・串本沖で沈没。乗組員 581 名が死亡したが、日本側官民あげての手厚い救護により 69 名が救助され、日本の巡洋艦によりトルコに送還された事件）が挙げられる。

また、2010（平成 22）年７月には横路衆議院議長（当時）がトルコを訪問し、2019（平成 31）年 11 月にはシェントプ大国民議会議長が日本を訪問するなど、両国議会間の友好が深められている。なお、2000（平成 12）年以降、トルコ大国民議会議長は４回日本を訪問している。

①海事博物館及び第二ボスポラス橋視察概要

・期　日　令和６年７月７日
・日本側　勝俣団長（自民）　城内議員（自民）　源馬議員（立憲）

イスタンブール市においては、日本とトルコの交流のきっかけとなった「エルトゥールル号遭難事件」に関する展示がある海事博物館と日本の支援により建設された第二ボスポラス橋について、視察を行った。

海事博物館では、館長によるエルトゥールル号遭難事件に関する展示物の案内を受け、トルコ海軍においては、現在でもこの遭難事件について、教育されている旨の説明を受けた。

第二ボスポラス橋については、現在でもイスタンブール市のヨーロッパ側とアジア側を結ぶ交通手段として機能していること、アジア側の発展が著しく、交通手段として重要性が増していること等の説明を受けた。

（海事博物館視察）

（第二ボスポラス橋視察）

②フアット・オクタイ（Dr.Fuat OKTAY）トルコ大国民議会外交委員長意見交換概要

・期　日　令和６年７月８日
・対応者　オクタイ　トルコ大国民議会外交委員長他
・日本側　勝俣団長（自民）　城内議員（自民）　源馬議員（立憲）
　　藤井議員（自民）

トルコ大国民議会において、フアット・オクタイ　トルコ大国民議会外交委員長及び外交委員会委員と意見交換を行った。意見交換の概要は、次のとおり。

オクタイ委員長からは、本年が日本とトルコの外交関係樹立 100 周年に当たり、上川外務大臣、フィダン外務大臣がそれぞれの国を訪問するハイレベルの往来が行われること、トルコ海軍コルベット艦の日本訪問や海上自衛隊練習艦隊のトルコ訪問を歓迎していること、政府間の交流に限らず、議会間の交流の促進も期待していること、二国間の経済・貿易関係発展のため、経済連携協定（ＥＰＡ）締結やトルコ社会保障協定締結交渉に日本の理解を求めたいこと、日本からの観光客の増加に期待していることなどについて、発言があった。

勝俣団長からは、トルコと日本は、エルトゥールル号遭難救出事案に端を発する歴史的な友好関係を有し、2013 年には両国関係が戦略的パートナーに格上げされ、本年は日本とトルコの外交関係樹立 100 周年に当たり、両国関係にとって記念すべき年であること、この記念すべき年にトルコを訪問することができたことは大変光栄なことと思っていること、日本政府がエルドアン大統領を日本に招待していると聞いているが大統領訪日が実現すれば素晴らしいことと考えていること、議会間の交流も非常に重要であると考えており、春に予定されていたオクタイ外交委員長訪日が延期となったことが残念であり、引き続き外交委員長訪日を期待していること、日本の航空会社によるイスタンブール空港への直行便就航が予定されており、両国間の往来の活性化が期待されることについて、発言があった。

（オクタイ外交委員長表敬）

オクタイ委員長からは、エルドアン大統領の招待や国民議会議長の訪日請はありがたいと受け止めており、関係各所に伝えること、二国間関係においてトルコ側の貿易赤字が大きいことは残念であり、ＥＰＡ早期妥結、相互投資増大、日本からの観光客増大を願っていること、日本の防災技術にも注目していること、テロ及び組織犯罪対策分野においても二国間協力を重視していること、日本ではトルコ内で発生したテロに関与したことが疑われる組織が依然として活動を続けており、日本の難民制度がこうした組織に悪用されているとの話も耳にしていることから、両国間での犯罪者引渡しや資産凍結に緊密な連携がされる必要があると考えていることについて、発言があった。

勝俣団長からは、日本が目指している佐渡金山の世界遺産登録について、発言があった。

オクタイ委員長からは、ガザ地域における人道支援についてトルコが果たしている役割、ウクライナ戦争においてトルコがロシアを非難し、ウクライナを支援しつつ、平和交渉を受け持つ用意があること、国連安保理改革の必要性や各国との協力関係について、発言があった。

藤井議員からは、ハマスのテロは断じて認められないこと、ガザ地区でのトルコの取組に感謝すること、ウクライナ戦争に関連して力による現状変更は認められないこと、日本は開かれたインド太平洋を主張していること、

ＡＩやサイバー攻撃に対する防衛などでのＮＡＴＯやトルコとの防衛協力を進めることについて、発言があった。

源馬議員からは、野党の立場として、外交について現在の日本の政府や与党と大きな差はなく、現実的な路線を取ること、おおむね問題意識は共通していること、ただし、表現は踏み込むべき部分があるなどの違いがあることについて、発言があった。

城内議員からは、故安倍総理がトルコとの関係強化に尽力していたこと、日本とトルコとの関係では、貿易や人的交流にポテンシャルがあること、佐渡金山の世界遺産登録について、発言があった。

（オクタイ外交委員長表敬）

③ムスタファ・フルキ・ジェヴィズオール（Dr.Mustafa Hulki CEVİZOĞLU）トルコ・日本友好議員連盟会長意見交換概要

・期　日　令和６年７月８日
・対応者　ジェヴィズオール トルコ・日本友好議員連盟会長他
・日本側　勝俣団長（自民）　城内議員（自民）　源馬議員（立憲）
　　藤井議員（自民）

トルコ大国民議会において、ムスタファ・フルキ・ジェヴィズオール トルコ・日本友好議員連盟会長、議連会員等と意見交換を行った。意見交換の概要は、次のとおり。

ジェヴィズオール会長からは、両国の長い友好関係、エルドアン大統領や外務大臣、大国民議会議長の訪日、友好議連の相互訪問再開、トルコ海軍軍艦の日本寄港、防衛産業におけるトルコの協力、トルコ日本科学技術大学（ＴＪＵ）の早期開学に向け、協力すること、テロ・組織犯罪対策についてのトルコと日本の連携強化、犯罪者引渡しに関する要求、佐渡金山の世界遺産登録などについて、発言があった。

勝俣団長からは、トルコ建国 100 周年のお祝い、日本とトルコの外交関係樹立 100 周年というタイミングでのトルコ訪問についての感謝、岸田総理とエルドアン大統領の会談などハイレベル交流、両国の経済関係、トルコ日本科学技術大学開学、アフリカでの二国間協力の促進などについて、発言があった。

城内議員からは、佐渡金山の世界遺産登録について、発言があった。

藤井議員からは、2023（令和５）年２月にトルコで発生した地震における被災者に対するお悔やみとお見舞い、トルコからの東日本大震災や能登半島地震に対する支援への感謝、アフリカにおける二国間協力、貿易協定や防衛、エネルギー分野における両国の協力について、発言があった。

（ジェヴィズオール トルコ・日本友好議員連盟会長表敬）

④ギョクハン・ヤズグ（Mr. Gökhan YAZGI）トルコ文化観光副大臣意見交換概要

・期　日　令和６年７月８日
・対応者　ヤズクトルコ文化観光副大臣他
・日本側　勝俣団長（自民）　城内議員（自民）　源馬議員（立憲）
　　藤井議員（自民）

トルコ文化観光省において、ギョクハン・ヤズグ文化観光副大臣と意見交換を行った。意見交換の概要は、次のとおり。

ヤズグ副大臣からは、トルコ文化観光省の建物はかつてトルコ議会として使用されていたものであり、そうした建物で日本の国会議員を迎えることができたことを喜んでいること、トルコと日本が長い歴史の中で友好関係を深め、文化・観光の全ての面で協力してきたこと、トルコと日本の外交関係樹立 100 周年の記念イベントはトルコ国民全体を包摂していること、展覧会や共同発掘などでも両国の協力が成果を上げていること、2023（令和５）年のトルコにおける地震に対する日本からの支援に感謝するとともに日本の過去の大災害での被災者に対するお悔やみ、ユネスコにおける日本との緊密な連携、佐渡金山の世界遺産登録などについて、発言があった。

勝俣団長からは、日本からの渡航についてのトルコ南東部のリスク評価を引き下げたことにより日本からの観光客の増加が見込まれることなどについて、発言があった。

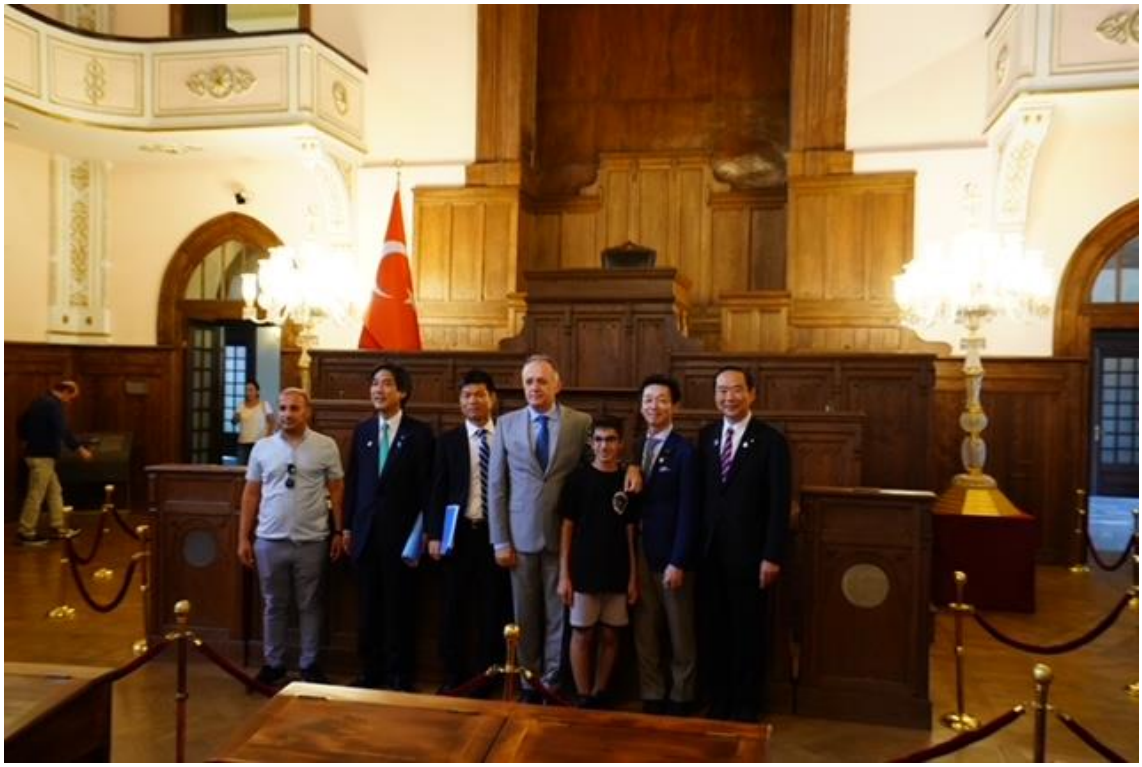
（ヤズクトルコ文化観光副大臣表敬）

城内議員より、佐渡金山の世界遺産登録について、発言があった。

源馬議員より、佐渡金山の世界遺産登録、日本とトルコの友好関係の基盤や歴史を両国の若者に知ってもらう必要性などについて、発言があった。

藤井議員より、佐渡金山の世界遺産登録について、発言があった。

（ヤズグ文化観光副大臣表敬）



（３） ギリシャ共和国

ギリシャ共和国は、面積が約 13 万平方キロメートル（日本の約３分の１）、人口は約 1,046 万人（中国・四国地方の合計人口と同等）とされている。民族はギリシャ人、言語は現代ギリシャ語とされ、人口の 90%がギリシャ正教、その他、他のキリスト教、イスラム教等であるとされている。

政体としては、共和制が採用されている。2020（令和２）年３月にカテリナ・サケラロプル大統領が就任している。2019（令和元）年７月にキリアコス・ミツォタキス首相が就任している。

我が国とのギリシャとの関係は、1899（明治 32）年に修好通商航海条約が締結され、国交が開始して以来、伝統的な友好関係を築いている。

また、2006（平成 18）年１月には河野衆議院議長（当時）が、2014（平成 26）年８月には赤松衆議院副議長（当時）がギリシャを訪問し、2005（平成 17）年５月にはベナキ国会議長が日本を訪問するなど、両国の友好が深められている。

①ギリシャ共和国議会視察概要

・期　日　令和６年７月４日

・日本側　勝俣団長（自民）　城内議員（自民）　源馬議員（立憲）
　　藤井議員（自民）

　ギリシャ・日本友好議員連盟との会談に先立ち、ギリシャ共和国議会の視察を行った。議会内には、ギリシャの歴史にまつわる各種の展示物が公開されていた。

（ギリシャ共和国議会視察）

（ギリシャ共和国議会視察）

②ゲオルギル・スティリオス（Mr.Georgios Stylios）ギリシャ・日本友好議員連盟会長意見交換概要

・期　日　令和６年７月 10 日
・対応者　スティリオス ギリシャ・日本友好議員連盟会長他
・日本側　勝俣団長（自民）　城内議員（自民）　源馬議員（立憲）
　　藤井議員（自民）

ギリシャ共和国議会において、ゲオルギル・スティリオス ギリシャ・日本友好議員連盟会長、議連会員等と意見交換を行った。意見交換の概要は、次のとおり。なお、意見交換に先立ち、スミルナ市長から「東慶丸によるギリシャ人等の救出」に関する記念品の贈呈等が行われた。

スティリオス会長からは、両国の友好関係を伝統的な海運にとどまらず、デジタル等の他の分野にも広げたいこと、ギリシャの造船業・海運業発展のためにも協力分野を更に広げたいこと、教育や気候危機に対しても両国の協力が必要であること、二国間の貿易を一層活発にするために障壁を取り除こうとしていること、互いの国を訪れる観光客は増加しており、更に交流を活性化させたいこと、アテネとの直行便再開を期待していること、ギリシャはヨーロッパやアフリカへのロジスティクスなどで地政学的に良い位置にあり、日本にも有用であること、ギリシャの農作物を日本でも利用してもらうために検疫についても議論したいこと、ギリシャはグリーンエネルギーをリードする国であること、ギリシャへの日本企業進出増を期待していることなどについて、発言があった。

（スティリオス ギリシャ・日本友好議員連盟会長表敬）

勝俣団長からは、本年は日・ギリシャ外交関係樹立１２５周年であり、「日・ギリシャ文化観光年」であること、これを機に行われた佳子内親王殿下のギリシャ御訪問についてギリシャ各地で大変温かい歓迎をいただいたことに対する感謝、内親王殿下のギリシャ訪問がギリシャ・日本国内双方で連日大きく報じられ、両国民が相互に相手国への関心を深めるきっかけとなったこと、両国間の様々な文化・観光事業を通じて一層関係が深まることが期待されること、両国の議員間でも日本とギリシャ双方で議連会長が新たに就任し、議員間交流が今後活発化することが期待されること、日本とギリシャはともに様々な災害が発生し、大きな被害を受けてきた国であり、互いに助け合ってきた歴史があること、東日本大震災や能登半島地震におけるギリシャ国民からのお見舞いや寄付金に対する感謝、第一次世界大戦頃に港湾都市スミルナにおいて日本船「東慶丸」がギリシャ国民を救出したとされることなどについて、発言があった。

城内議員からは、ギリシャに対する日本の直接投資を増加するべきであること、日本とギリシャがともに海洋国家として海の平和に大きな責任を持つこと、佐渡金山の世界遺産登録などについて、発言があった。

（スティリオス ギリシャ・日本友好議員連盟会長表敬）

（スティリオス ギリシャ・日本友好議員連盟会長表敬）

③ディミトリス・ケリディス（Mr.Dimitris Kairidis）国防外務常任委員会副委員長意見交換概要

・期　日　令和６年７月 10 日
・対応者　ケリディス 国防外務常任委員会副委員長他
・日本側　城内団長代理（自民）　源馬議員（立憲）　藤井議員（自民）

ギリシャ共和国議会において、ディミトリス・ケリディス国防外務常任委員会副委員長及び委員と意見交換を行った。意見交換の概要は、次のとおり。

ケリディス副委員長からは、両国の共通点として長い歴史があること、海洋法を尊重し法の支配を確立していること、一方で近隣国との関係で困難な課題を有していること、二国間関係ではギリシャ経済に日本の豊かな経験を伝えてほしいこと、日本の造船技術に対するギリシャ船主の厚い信頼があること、日本のアニメと漫画がギリシャの子供たちにも人気であることなどについて、発言があった。

城内議員からは、日本とギリシャは基本的価値を共有する海洋国家であること、海洋法条約を尊重し、自由かつ安全な航行が重要であること、日・ギリシャ租税条約が承認されたこと、佳子内親王殿下のギリシャ訪問をギリシャ国民の皆様が歓迎されたことへの感謝、ツーリズムジャパンエキス

ポ開催に伴うギリシャ観光大臣の訪日への期待、佐渡金山の世界遺産登録について、発言があった。

源馬議員からは、国際情勢、米中対立、佐渡金山の世界遺産登録について、発言があった。

藤井議員からは、日本が開かれたインド太平洋を提唱していること、尖閣諸島に対する中国の国際法違反事案、日本とギリシャとの文化観光、航空便での進展などについて、発言があった。

（ケリディス国防外務常任委員会副委員長表敬）

④ヨルゴス・コツィラス（Mr.Giorgos Kotsiras）外務副大臣意見交換概要

・期　日　令和６年７月 10 日

・対応者　コツィラス外務副大臣他

・日本側　城内団長代理（自民）　源馬議員（立憲）　藤井議員（自民）

ギリシャ外務省において、ヨルゴス・コツィラス外務副大臣と意見交換を行った。意見交換の概要は、次のとおり。

コツィラス外務副大臣からは、国交樹立 125 周年を記念した佳子内親王殿下のギリシャ訪問に感激したこと及びギリシャでも注目を浴びたこと、昨年のミツォタキス ギリシャ首相訪日に同行したこと、日本とギリシャの文化観光年として多くのイベントを開催する大使館への感謝、ミツォタキス首相訪日の際に確認された「戦略的パートナーシップ」でも取り上げられた観光の重要性、ギリシャが国連非常任理事国となったことから日本との国連の場での協力を期待すること、両国の共通点として島国であり海洋国家であり、航行の自由を標榜する国であること、ギリシャは西バルカン地方の広域経済のハブとなりつつあり、日本からの更なる投資増大を期待すること、自らも国会議員であるが議員外交・議員交流を歓迎することなどについて、発言があった。

（コツィラス外務副大臣表敬）

城内議員からは、佳子内親王殿下のギリシャ訪問における温かい歓迎に対する感謝、ツーリズムジャパンエキスポ開催と観光大臣来日をきっかけとするギリシャに対する観光客増大の期待、互いに海洋国家であり、自由、民主、法の支配という価値観を共有する両国の協力関係が一層深化することへの期待、日本からの直接投資を高めて経済面でも両国の関係を強化する必要性、ギリシャの非常任理事国就任へのお祝い、佐渡金山の世界遺産登録などについて、発言があった。

源馬議員からは、ギリシャは多くの日本人の憧れの地であること、ヨーロッパ文化の祖先としてのギリシャに対する日本国民の認知拡大の必要性などについて、発言があった。

藤井議員からは、佐渡金山の世界遺産登録、ギリシャとのＡＩやサイバーセキュリティ、防衛産業に関する協力関係構築、海運・造船・デジタル・観光での協力関係進展などについて、発言があった。

（コツィラス外務副大臣表敬）